

教科等名：美術

グループ：高等部 I コース
美術 1 グループ

事例報告者：教員G

1 研究グループの概要

[教員] 10名

小学部 5名

中学部 1名

高等部 4名

美術専科 0名

[対象] 高等部 I コース美術 1 グループ

生徒 17名、教員 4名

2 事例研究の経過

①実態把握

②授業実践

③学習の様子

④考察、授業改善

実態把握①

指導内容及び目標の段階一覧 (R7 2・3学期)

教科 (図画工作・美術)

コース		IIコース			Iコース														
学部		小A	中A	高A	小低			小中			小高			中		高			
グループ					1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	3G	1G	2G	1G	2G	3G	
指導者	CT 免許 美術専科	非公開																	
	ST数	非公開																	
児童生徒	国語の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	小3	中1	小3	小3
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小3	小1
	数学の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小3	小3	小1	小3	小2	小2	中1	小3	中1	小3	小3
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小1	小3	小1
単元1	A 表現【絵画】	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
単元2	A 表現【造形】	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
単元3	B 鑑賞	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	
	目標の段階 (上位)	小1	小1	小2	小1	小1	小1	小3	小2	小1	小3	小2	小2	中1	中1	高2	中2	中2	



1G
中1
小3
中1
小3
高2
高2
高2

【グループの生徒の様子】

- ・ 17名の生徒がおり、そのほとんどが高等部からの入学者である。教師の言葉での説明・指示を概ね理解できる。発語に問題はないため生徒とのコミュニケーションは難しくはない。教師はST含め4名で指導している。授業中に別のことに意識が向いてしまう生徒が複数名おり、注意しないと私語により授業がざわついてしまうことがある。
- ・ 形や色の違いは容易に理解できるが、その表現においては精緻な表現ができる生徒、おおざっぱで雑な表現となってしまう生徒と実態差がある。
- ・ 周りの刺激により自らの感情コントロールが乱れてしまう生徒もおり、授業中は環境の配慮が必要である。

授業実践

【教科名】 美術

【単元名】 ダンボールアート

【単元設定の理由】

1 単元観

- (1) ①完成作品をイメージして素材や材料を組み合わせる。
②創意工夫して作品のイメージを膨らませる。
- (2) ①目的に合った道具を選択し、適切に使用する。
②自分の考えた作品をイメージして組み合わせるパーツを工夫する。

2 指導観

- (1) 進捗に合わせた図や解説を用意して各自の進捗状況で作成方法を確認できるようにする。
- (2) 私語が減り授業に意識が集中できるようなグループ編成とする。

【学習指導要領上の段階】 高等部 2 段階

【単元の目標】

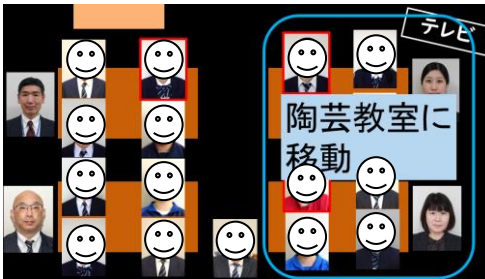
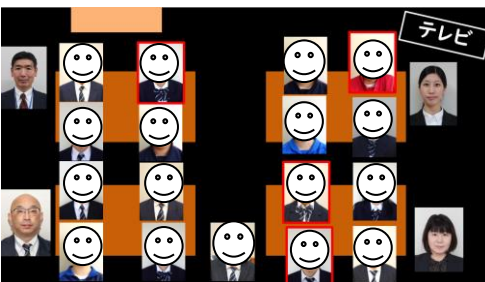
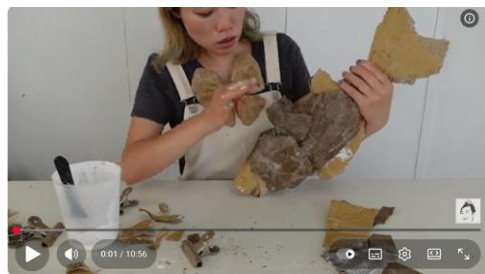
知	・ 形や色彩、材料、光などの造形の要素の働き掛けに気付いたり知ったりし、意図に応じて表現することができる。
思	・ 創造的なよさや面白さ、美しさ、表したいことの意図と工夫などについて考え、発想したり構想を練ったりして、見方や考え方を広げる。
学	・ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術に親しむ心情を高め、楽しく豊かな生活を創造する態度を身に付けようとしている。

実践①

【本時の内容】 ダンボールアート

【本時の目標】

知	・ ダンボール素材や色の特徴を生かし、道具を工夫して作成することができる。
思	・ ダンボールの素材や性質を工夫して作成することができる。
学	・ ダンボールアートに興味をもち、表現活動を楽しもうとしている。



- ・ 動画『【ダンボール造形】ダンボール1箱サカナ』を視聴しながら説明。動画の途中では所々静止させ補足的な説明を加えた。
- ・ 事前にダンボールで魚を作成し、作成時の時間を確認した。また、生徒が実物の質感を確認できるように見本を提示した。
- ・ グループでの座席とすることで友達と相互に協力ができるようにした。



- ・ 動画

 - 【ダンボール造形】ダンボール 1箱サカナ

- ・ PPT資料

- ・ ダンボールアート造形 魚を作ろうBOOK



- ・ PPT資料を作成し、使用用具を説明。

- ・ ダンボールをやわらかく加工する際、「ドンドン」「ガシガシ」など擬音を用いて説明し、工程をわかりやすく伝えた。



①成果

- ・説明動画の視聴および、教員からの説明を適時加えることで、作成時のイメージが膨らみ活動内容に見通しをもたせることができた。
- ・作品のポイントとなる「皮」「粘土」をわかりやすく理解させ、それらを適切な箇所に用いることができた。
- ・生徒の特性に合わせてグループのメンバーに変更を加え、落ちついた授業を進められるようになった。

②課題

- ・毎週の授業の度にダンボールの「皮」「粘土」の準備に多くの時間がかかり、作成時間を圧迫した。

①成果

- ・ 用具の名前の理解がしっかりとできていたため、工程説明の際、速やかな説明が行え、作成に多くの時間を使えるようになった。
- ・ 擬音を使いイメージを膨らませた説明を行ったため、生徒の理解が深まり、最初の工程であるダンボールをやわらかく加工することがしっかりとできた。

②課題

- ・ 17名の生徒がいることから、用具等の名前の理解が全員にどの程度進んでいるかの確認が困難。
- ・ テスト等の実施もできるが、少ない時間を割くことは惜しいと考える。

1

10月

議題（教科の力）

よりよい授業にするための手立て

メンバー
教員G、他9名

良いところ

手順表を各テーブル毎に置いたことは、生徒に合わせて確認できるので良いと思う。

動画と手順表の両方があることで、活動のイメージがもちやすい。

見本があることでイメージがもちやすかった。

活動の順序があり見通しをもちやすい。

進む速度が異なるため、手順表を個々で見れるのはよい。

手順表と動画によって個人に合わせてあり、何をするのがわかりやすい。

自由に作品を作っている。

課題等

手順等

作成したPPを生徒のタブレットに入れることで、グループ内でも各自のペースに合わせてできるのではないかな。

下書きなしで作成できる生徒と図がないと取り掛かりにくい生徒。

活動の前段階で、素材の特徴に触れるだけの時間があってもよい。

道具が一人一つあるとスムーズに作業ができる。

段ボールではなく、普通の紙でも作ってみる（作図代わり）。

イメージ作り

魚の模型を触って、立体的に魚を捉えようとイメージしやすい。

見本をいくつか準備。または、生徒のを見本に。

鑑賞の時間などを設定すると新たな視点（工夫）などを共有できるのではないかな。

選択肢を用いた言葉かけ。

目標時間数の設定を生徒にも示す。

友達やグループで協力して一つの作品を作る活動もいいかも。

グループ分けすることにより別の空間で作業している生徒の様子がわかりにくく、指導差が出てしまった。

1

10月

議題（言語能力）

よりよい授業にするための手立て

メンバー
教員G、他9名

良いところ

生徒同士で話し合う姿が一部見られている。

使用用具の説明をすることによって使用用具の名称を理解した。

友達の作品の良い所を発表。

課題等

イメージ作り

色や形、各部分のイメージを絵に描き、その生徒のイメージ図を作成してから立体にしてはどうか。

パーツの形や大きさを確認し、どの段ボールを使って作るのかを伝える。どうやれば丸になるのか、三角になるのかを質問する。

どんな魚がいるのか
どんな魚をつくりたいのかを決めると支援しやすいかもしれない。

どこにどのパーツをつなげるか、どうやってつなげるとよいか等、一つの作業を細かく伝える。

魚のパーツの言語理解。

振り返りの時間を設け、パーツの工夫した点を伝える。

①成果

- ・生徒同士で話し合ったり、助け合ったりする姿勢が見られた。
- ・作業手順が各テーブルにあることで、進度が違う生徒が確認できる。
- ・使用用具を説明することにより、指示が通りやすく準備の時間を軽減できた。
- ・実物の見本があることでイメージしやすかった。
- ・自由にそれぞれの個性を生かした作品作りができている。

②課題

- ・段ボールではなく普通の紙で作ってみてからでもイメージがつかみやすいのではないか。（作図）
- ・魚のパーツに対する言語理解。
- ・イメージがあっても活動に移すことが難しい生徒への声掛け。
- ・目標時間数の設定を生徒にも示す。
- ・鑑賞の時間などを設定し、自分の考えや他者の感想などをやり取りする場面を設定する。
- ・どんな魚がいるのか、どんな魚をつくりたいのか等の事前学習が必要。

①成果

- ・生徒同士で話し合ったり、助け合ったりする姿勢が見られた。
- ・作業手順が各テーブルにあることで、進度が違う生徒が確認できた。
- ・実物の見本があることで活動がイメージしやすかった。
- ・自由にそれぞれの個性を生かした作品作りができています。
- ・目標時間数の設定を生徒にも示したことにより、より意欲的に活動する姿勢が見られた。

②課題

- ・段ボールではなく普通の紙で作ってもイメージがつかみやすいのではないか。
- ・イメージがあっても活動に移すことが難しい生徒への声掛け。
- ・気が散ってしまい、活動に集中できない生徒への効果的な工夫と声掛け。
- ・どんな魚がいるのか、どんな魚をつくりたいのかの事前学習。

①成果

- ・ 使用用具を説明することにより、指示が通りやすくなり準備の時間を軽減できた。
- ・ 作品の見本を用いながら説明することにより、生徒の作品に対する理解が深まった。
- ・ 魚の部位に対する言語理解が深まり、生徒同士が話し合う場面が多くみられるようになった。

②課題

- ・ 鑑賞の時間などを設定し、自分の考えや他者の感想などをやり取りする場面を設定する。
- ・ イメージがあっても活動に移すことが難しい生徒への声掛け。

2

11月

議題（教科の力）

よりよい授業にするための手立て

メンバー
教員G、他9名

良いところ

活動前に目標や時間数を伝えていた。

完成までの期間を提示したことで見通しをもって活動できた

魚の部位について確認していた。その後も部位の名称を使っていて部位のイメージが付きやすいと感じた

図を使い魚の部位を確認したり、種類を確認していた。

こうしなければならないということがなく、自由に製作できた。

生徒の作品を通して、魚の部位や良い部分を紹介しており良い。

魚にも色々な種類がいることや魚の部位について確認していた。

魚の部位を丁寧に確認したり、友達の作品を鑑賞したりすることで、生徒の中でイメージを深めたり、教師側にとっても生徒の実態を把握できたりして良かったと思う。

友達の作品を見ることで、形の違いに気付き、様々な感想がでていた。

生徒同士が友達の作品の良さを見つけたり、褒め合ったりする様子が見られた。

課題等

制作への見通し

予定表や目標などを掲示しておくが良い。

単元の最初に予定表を準備し、完成時間数を意識させたり、毎時目標を立ててもいいのでは。

なかなかうまく作品の良いところを表現できないところは教師が褒めてあげてもいいかもしれない。

手立て

手順表を全部掲示してもいいかもしれない。進捗状況などが把握しやすいのではないか。

言葉で伝えているポイントを手順表の中に示してもよい。

鑑賞の時間に、本人の発表の後に、作品に対する感想を数名聞けたらよいのでは。

2

11月

議題（言語能力）

よりよい授業にするための手立て

メンバー
教員G、他9名

良いところ

完成までの授業回数を伝えることで、授業全体に見通しをもつことができ、作業スピードも意識することができる。

魚の名称や部位などをクイズ形式にしたことで興味関心を高めていたのではないか。

振り返りの時間を設けることで、友達の進捗状況を知ることができていた。

教師側からの投げかけや鑑賞により、生徒側の言葉が多く出されたように思う。

課題等

手順についてルビを振ると読みやすいと思う。

同じ部位でも異なる形があるなど話し合ってもよいと感じた。

生徒によっては、べたべたした感触が苦手な生徒もいた。

作品の感想等

実態によっては、他の生徒からの感想を聞いても良いかもしれない。

生徒が表現しづらい場合は教師が良い部分や工夫している点を言語化してあげると良いのではないか。

生徒の発表だけでなく、教師が良い点などを伝えても良い。

鑑賞は活動前、活動中、活動後など生徒の進捗状況も応じていつでも時間を設けても良い。

毎時振り返りや、進捗状況の確認や発表があってもいいのでは。

①成果

- ・ 魚の名前や部位などを図や見本を見ながら確認することにより、名前を知ったり、部位のイメージをもったりすることができた。
- ・ 活動前に目標や時間数を伝えることで、見通しをもったり作業スピードを意識したりする生徒が多くなった。
- ・ 鑑賞では、友達の進捗状況を知ることができたり、形の違いに気付き様々な感想が出てきたりしていた。
- ・ 見本に縛られず自由に制作する生徒が多くなった。

②課題

- ・ 単元の予定や手順表、本時の目標などを、言葉で伝えるだけでなく掲示する。また、ポイントなどを掲示してもよい。
- ・ 鑑賞は、活動前・活動中・活動後など、生徒の進捗状況に応じていつでも時間を設けてもよい。鑑賞の時間は必要だが、活動時間を確保する必要もあるため、毎時間は設けなくてもよい。
- ・ 生徒の発表だけでなく教師が伝えたり、生徒が発表した意見を具体的に言語化しわかりやすく伝えてもよい。

3 成果と課題

[成果]

研究会を通して、授業の中で見本や手順の提示の仕方だけではなく、単元の目標や時間数、魚の名前や部位、イメージづくり、制作に必要な基礎知識等の基本事項を確認することにより、生徒の制作への構想を膨らませたり、工夫しながら取り組む姿が見られるようになった。また、授業の見通しをもつことで作業のスピードを意識する生徒が多くなる等、より良い授業を展開することができた。さらに、授業を工夫することにより、制作に必要な言語の理解が深まると共に、生徒が制作に繋がる話し合いを自主的に行う様子や作業を助け合う姿等、生活や他教科の場面に繋がる様子が多くみられるようになった。

次に、研究会の中で討議された「鑑賞」については、他者の作品を鑑賞することにより、形の違いに気付いたり、創作意欲が増し、自分なりに工夫して制作する姿がみられたりする等、美術の授業における鑑賞の重要性を確認することができた。

今年度の事例研究会においては、グループ研究者全員で授業の良い点や改善点等を出し合うことを行った。教師側の授業づくりの向上に併せて、生徒が新しい知識と既知の知識を活用させ、自らの中にイメージや見通しをもちながら制作に向かう姿がみられるようになった。また、報告者からの課題に挙げられていた集団の実態も、授業を通して「話し合い」「助け合い」「他者を褒める」等の姿が生徒達の中から自然と行われる姿が見られるようになり、今後、日々生活や他の学習においても般化されていけると良い。

[課題]

本グループの課題としては、準備の多さや手順表の提示方法等、授業者から幾つかの課題が出された。その中で「イメージがあっても活動に移すことが難しい生徒への声掛けの仕方や表現への導き方について」は、研究会の中で最善の改善方法に迫るまでには至らなかった。また、学習指導要領に示されている「A 表現」について、研究会の中で授業改善を通して概ね検討することができたが、「B 鑑賞」の指導内容の「生活における美術の働きなどを感じ取り」や「身近な地域や日本及び諸外国の美術の～美術文化に対する関心を高める」ための単元設定や指導方法について検討することができなかった。

本グループの対象生徒は高等部生であり、早い生徒で数か月後、遅い生徒でもあと2年で学校生活を終える。生徒達が社会に出た時、身の回りの物はもちろんのこと、生徒達が暮らす地域や日本、そして世界中にある物と出会った時に、美しさや心を動かされることに気づき、心豊かな生活に繋がる学習を展開していけることが望ましい。事例共有を行ったグループ全員での研究会において、「『たのしいな。きれいだな。』と思う気持ちの経験の積み重ねが将来に良い影響を与えられるのではないか。大事にしていきたい。」という意見が出され、ほとんどの研究者達から頷きが見られた。美術の授業を通して、教えるだけでなく、「楽しさ」「美しさ」を児童生徒が感じられる授業について検討することができたら良かった。

本校は小学部、中学部、高等部と一貫した指導を行うことができる。1学期の研究会でも意見として出されていた「連続した学びと積み重ね」について、小学部段階で身に付けておきたい力と、小学部段階で身に付けた力を中学部、高等部においてどのように発展させ、積み重ねていくかについても研究として検討していくことができれば、今年度の研究主題に更に迫れたのではないだろうか。